



(公財) 中村元東方研究所 / 東方学院

東方だより

平成 27 年度 前期号 (通号 第 26 号)

〒 101-0021
 東京都千代田区外神田 2-17-2
 延寿お茶の水ビル 4 階
 tel 03-3251-4081
 fax 03-3251-4082
 URL <http://www.toho.or.jp>

(中村元著『学問の開拓』(佼成出版社、1986))

目 次

理事長ご挨拶

・東方学術賞物語 前田専學理事長p2

新理事ご紹介

・生田忠士理事 笹木敬代理事p3

特 集

・日本を救った仏教国のジャヤワルデネ
スリランカ元大統領と中村元先生 保坂俊司p5

東方学院

・新講師のご紹介 佐々木閑講師 来馬正行講師p6

・研究会員の声 山本真理子さん 江川一さんp7

研究活動

・科学研究費 基盤研究(A)
インダ的共生思想の総合的研究p8

・研究所コラム 林慶仁専任研究員p9

・研究員の声 田中公明専任研究員 山口周子専任研究員p10

行事イベント報告

・ナマステ・インディア 2015 他p12

新刊紹介 平成 27 年度芳名録 事務局通信

東方学術賞物語

―理事長ご挨拶にかえて―

前田專學



中村先生は旧制一高時代に良き師に恵まれた方でした。その一人はドイツ人教師ブルーノ・ペツォルド先生でした。ペツォルド先生からは、ドイツ語ばかりではなく、はじめに仏教教理の講義を公教育の場で教えられ「ただ折に触れて断片的に仏教の話をされたにすぎないが、先生から受けた感化は後々までわたくしの仏教に対する理解の仕方に、大きな影響を与え続けたのであった」と述懐されているほどでした。この先生の推薦があったかららしく、先生は一高卒業の時にドイツ大使館から賞を頂かれ、「孤影悄然たる貧書生のわたしを大いに力づけてくれた」のでした。

中村先生はこの時の感動から、東方学術賞をインド大使館と共催で設けることにされたのでした(『学問の開拓』)。

第1回目の授賞式は今から36年前の昭和54年9月5日にインド大使館で行われました。第1回目の授賞者は、中村先生の先輩で原始仏教とパーリ語の研究で不朽の業績を挙げられた水野弘元駒澤大学元総長(当時)で、賞の名称は「東方学術特別顕彰」でした。

翌昭和55年に第2回目の授賞式が行われ、同じく東方学術特別顕彰のほか、最初の「東方学術賞」が奈良康明駒沢大学教授(当時)、最初の「東方学術奨励賞」が川崎信定筑波大学教授(当時)に、最初の「東方学術追悼顕彰」が静谷正雄龍谷大学元教授に授与されました。これ以後、授賞式は毎年ではなく随時行われました。

私がこの賞に関与するようになったのは、平成9年に行われた第10回授賞者選考委員会の委員に加えられるからでした。その2年後平成11年10月10日に先生が逝去され、当研究所は支柱を失い、授賞式どころではなくなっていました。しかし先生は賞の継続を強く望んでおられたので、当研究所は体制を整えてまでもなく、第11回の授賞式を先生のご命日にあたる平成13年10月10日に行いました。その際に賞の名称を「中村元東方学術賞」と改称し、先生がご葬儀の折には全員で唱和し

て欲しいと遺言された「日課経」のうちの「三帰依文」のみを唱和することにしました。その後これが当研究所の毎年恒例の行事となりました。

じつはこの賞とは別に「中村元賞」が宝積比較宗教文化研究所(所長・福井一光教授)に中村先生の許可のもとに創設され、平成5年に第1回の授賞式が行われましたが、平成19年の第15回をもって幕を閉じ、「中村元賞」は当研究所に返還されました。

しかし若手の研究者を応援するためにかつての「中村元賞」の精神を継承する若手研究者学術奨励賞の創設を強く望まれながらもその実現を見ないで、その基金を残して亡くなった三橋正氏の遺志を生かす会が今年になって発足し、是非公益財団法人中村元東方研究所で授与していただきたい、という熱心な要請があり、今回から「中村元東方学術奨励賞」をお引き受けすることになりました。

去る6月文部科学省は、国立大学に対し人文社会科学系の学部や大学院について廃止や転換を求める通知を出し、強く再編を迫りました。今後は当研究所のこの二つの賞が縁となって、中村元先生の高邁なご遺志と理想が継承され、科学技術創造立国の錦の御旗のもとに、ややもすれば軽視されがちな人文科学の興隆に資することを念願して止みません。

新理事のご紹介

平成 27 年 6 月 18 日に実施いたしました第 7 回評議員会の決議により、生田忠士氏、笛木敬代氏の 2 名が新規理事に就任しました。

生田忠士理事



【プロフィール】 いくただだし
 昭和 23 年 北海道千歳市生まれ
 平成 7 年～平成 18 年 シンガポール Mitutoyo Asia Pacific
 Pte. Ltd. (株) ミットヨ東南アジア統括本社 社長就任
 平成 17 年 (株) ミットヨ日本社取締役就任
 平成 25 年 公益財団法人仏教伝道協会 常務理事就任

この度、理事に就任しました生田です。中村元東方研究所は世界的仏教学の権威中村元先生が、国籍も学歴も年齢も問わず真に仏教を学ぶ人の為に設立された由緒ある財団であり、その理事に就任することは大変光栄ではありますが、同時に責任の重さも感じております。特に長年、海外でのビジネスの世界だけで生きて来た私の人生にとって、仏教は遠い存在だったと言っても過言ではありません。縁あって現在の (公財) 仏教伝道協会でも働き始めてから仏教の素晴らしさ、奥深さ、難しさに接するようになりましたが、仏教に關しては素人と言えます。財団の理念の一つに「学問、研究の域にとどまらず、一般社会と一緒に生きてきた学問としての活動」と謳っております。研究者の方々とは違った視点で財団の運営を見て一般社会の目線でご提案等が出来ればと思っております。皆さんから教えて頂くことばかりだと思いますが、ご指導の程宜しく願います。

笛木敬代理事



【プロフィール】 ふえきたかよ
 昭和 41 年宇都宮市生まれ。コミュニケーションシンプロ
 デューサー、コーディネーター。(公財) 中村元東方
 研究所では、平成 21 年より本年 3 月まで広報アドバイ
 ザー。中村元博士生誕 100 年記念事業企画委員及び実行
 委員。

私が初めて東方研究会 (当時) をお訪ねしたのは平成 11 年の春でした。駿河の原の松蔭寺の、今は亡き中島玄奘老師とご一緒に、中村先生に白隠展の監修をお願いに伺った時でした。その折、中村先生は「いいことだから一緒にやろうじゃないか」と大きな声で言葉をかけてくださいました。玄奘老師が学問をもってブツダの教えを實踐されていらした中村先生を深く尊敬され、お二人が知音の仲でいらしたことが私を東方研究会へと導いたのでした。こうしたご縁で、この数年、事務局の皆さんと共に、財団の業務活性化のため微力ながら尽力して参りました。一筋縄ではいかないことも多々ございましたが、中村先生から前田先生へと大切に受け継がれている『純な』風土と東方に集う様々な方々によって様々に醸し出される善良なぬくもりと支えられてやり抜くことができた気が致します。それはまた身近な覚者 (ブツダ) の言葉に耳を傾け、大切なことを学ぶ日々でもありました。これからも中村先生のあの大きなお声を励みに、遠い未来にまで颯爽と生い茂るバナンの森を思い描きながら、中村元東方研究所といううるわしい知の森の、佳き住人であるように努めたいと存じます。

【特集】
日本を救った仏教国のジャヤワルデネ
スリランカ元大統領と中村元先生



保坂俊司

(公財) 中村元東方研究所理事
 中央大学教授



中村先生とジャヤワルデネ
 前スリランカ大統領顕彰碑

写真：鎌倉高德院のジャヤワルデネ前スリランカ大統領顕彰碑

中村先生によるジャヤワルデネ碑誌



日本は戦後70年の節目に、戦争のできる国家へと大きく舵を切ろうとしていました。70年前にあれだけ大きな自国民の犠牲とアジア諸国へ迷惑をかけたことを忘れたかのようです。敗戦からの奇跡的な経済発展により、日本人は大切なことを忘れてしまったのではないかと危惧されます。特に、日本が実現した経済発展の裏には、甚大な被害を受けたアジア諸国による救しの事実があったことなど学校でも教えません。しかし、第二次大戦の敗戦後の日本には厳しい視線が注がれ、日本分割案まで作られた事は、歴史的事実です。そうなっていたら日本の発展は不可能であったでしょう。

つまり、日本の奇跡の経済発展、戦後復興には、日本人の努力と並び、日本の寛大なアジア諸国の存在があった

たのです。しかしアジア諸国は当初、日本への厳しい処置と膨大な戦争賠償を要求しておりました。その時に、日本への赦しと戦争賠償の放棄を訴える名演説で、会場の雰囲気を一変させたのが、ジャヤワルデネ氏だったのです。

ジャヤワルデネ氏は、お釈迦様の「実にこの世においては、怒みに報いるに怒みを以てしたならば、ついに怒みの息むことがない。怨みをすててこそ息む。これは永遠の真理である。」(『法句経』第5)という言葉を用い、仏教の立場から日本への慈悲と救いをアジア諸国の首脳に説いたのであります。

そして、中村先生はジャヤワルデネ氏を終生敬愛しておられました。実は、ジャヤワルデネ氏が、講和会議の前に、わざわざ日本に立ち寄ったのには大きな理由があったと言われています。それは、日本は仏教国として慈悲と平和の国として立ち直れるか、というのを確かめにわざわざ回り道をしたようです。そして、多忙な日程の中、鎌倉に鈴木大拙を訪ね、

さらに鎌倉大仏や鶴見の総持寺を訪ねました。この時受けた印象から、ジャヤワルデネ氏は、日本の平和的な復活を確信し、あの名演説につながったのです。かつて中村先生は、この時、英国大使館で開かれたパーティーで、偶然ジャヤワルデネ氏と会話したと、授業で仰っておられました。また、ジャヤワルデネ氏の二度目の来日時(昭和43年6月)には、読売新聞の企画で、直接対談もされています。そして、中村先生は、ジャヤワルデネ氏への感謝をこめて平成3年5月鎌倉の大仏様で有名な高德院(住職佐藤密雄師)の境内に、その顕彰碑が建てられた時、中村先生はその碑誌にジャヤワルデネ氏への感謝と共に「21世紀の日本を創り担う若い世代に送る慈悲と共生の理想を示す碑であります。この原点から新しい平和な世界が生まれ出ることを確信します」と述べられています。

木から無数の気根が生え、それらがやがて幹となり、それらが次々に新しい世代を生み出して行き、まるで森のように大きな、しかしそれらは相互に支えあつて大樹を形成するのです。私達ひとり一人が、この大樹の一本の気根として、中村先生の平和希求の御意志を引き継ぎ、東方学院などの活動を通じて、次世代の幹となるように努力しなければならぬと考える次第です。

今年はいくくも中村先生の17回忌です。この様な時に、改めて平和と共生の思想を追求し、仏教の慈悲の立場から日本の窮地を救ってくださったジャヤワルデネ氏への感謝を終生お持ちになった、中村先生の御心に思いをはせる事は重要な事ではないでしょうか。

著者プロフィール
保坂俊司 ほさかしゅんじ
昭和31年群馬県生まれ。早稲田大学文学部研究科修了。その間、インド・デリー大学留学。東方学院主事、麗澤大学教授を経て現職。著作は『シク教とその文化』、『インド仏教はなぜ亡んだか』など多数。



東方学院

新講師のご紹介



東方学院では、開講講座の編成に随時見直しを加えながら、インド思想や仏教の分野を中心に、時宜にかなったテーマ、話題の講師による連続講座など、東方学院ならではの講座を例年新規に開講しています。

今回は、本年度新たに着任された講師のうち、佐々木閑先生、来馬正行先生にお話をうかがいました。



佐々木閑先生



昭和 31 年福井県生まれ。京都大学工学部工業化学科、および文学部哲学科仏教学専攻卒業。京都大学大学院文学研究科博士課程満期退学。米国カリフォルニア大学バークレー校留学を経て、花園大学文学部仏教学科教授。文学博士。日本印度学仏教学会賞、鈴木学術財団特別賞受賞。

日本の教育界に害毒を流した「ゆとり教育」がようやく終息し、子供たちは「学ぶ権利」を取り戻すことができました。学びというのは、決してそれ自身が楽しい行為ではありませんから、自分で自分を鼓舞しなければ続きません。それはある種の苦行です。もちろん、勉強が軌道に乗って楽しさが分かるようになれば、人生最大の楽しみにもなるのですが、そこまでいくには、最初の段階でどうしても周りからの叱咤と、自分自身の強い努力が必要になります。学びとは、重くて動きそうもない蒸気機関車が、釜焚きさんの懸命の努力で蒸気エネルギーをもらい、それで自分のピストンを動かして少しずつ少しずつ転がりだし、遂には轟々と山野を快走する、そんなイメージと似ています。

それを「ゆとり教育」は、釜も焚いてもらえないで、ただそこに置かれたままの蒸気機関車、つまり子供たちに向かって、「無理せず自由に走りなさい」とやさしく言っている

ようなものです。エネルギーも与えられずに一人で自由に走れる蒸気機関車などどこにもありません。「ゆとり教育」のやさしさとは、実は無責任のやさしさでありました。

仏教学も立派な学問の一員ですから、状況は同じです。「ゆとり仏教学」などという脳天気なものはこの世には存在しません。ですから最初の一步はやはり苦行です。その苦行をできるだけスムーズに通過して、山野を疾走する爽快感にまで高めていく手助けをするのが、私の任務だと考えて、今回、講師をお引き受けしました。未熟な釜焚きですが、よろしく願います。

来馬正行先生



昭和 26 年 8 月群馬県奥利根の古利で出生。駒澤大学仏教学部禅学科卒業、同大学院修士課程文学修士、曹洞宗大本山永平寺専門僧堂修了、観音院住職四十年、宗門の伝統部門に従事する傍ら同研究センター、内外の講座、参禅会に出講。

中村元先生の御生涯を全うされた仏縁と慈悲行の深い因縁に導かれて、この度不肖ながら本学院で坐禅と正法眼蔵を参学する機会をいただきました。

今にして先人祖師方が連綿と継承正伝した仏道の奥義に参ずるとき、古人の「百尺竿頭上になお一步を進む」の箴言を自己の修道生

東 方 学 院

活の姿勢に随順することが学道の用心であるろうかと自省しています。

さて、中村先生の深く且つ広い学問的視野は渾身の力を尽くした膨大な著作となり、その顕著な学徳は限りなく人々に施されています。小生も現に岩波文庫本の『正法眼蔵隨聞記』(和辻哲郎校訂)を通じて本書に熱心に携わった中村先生の至誠、その厳密な学究の姿勢に敬意を表する者であります。

また『正法眼蔵隨聞記』は上梓(昭和 4 年)以来すでに 86 年が経ち 84 刷もの版を重ね普及されている事実は、正に偏向なき人格向上に参学する道標となる必読の書である所以です。

昭和 57 年の修訂本の後書きをされた中村先生は、『仏道の究極者道元』と信頼し「隨聞記は、歴史を超えた、不変の人間の真実をわれわれの心に伝えてくれる。それがわれわれの心を打つのである」と結ばれます。

小生も本来の面目を行ずる得難い一会に随喜できますことを感謝いたし、茲に古人の遺徳に参じ報恩の弁道功夫に努めます。



観音院における坐禅実習

東方学院

研究会員の声

仏教資料を読む楽しみ

研究会員 山本真理子さん

現在、パリー語文献講読クラスに通っています。テキストは『ミリンダパンハ』、コツコツと辞書を引き、文法書に当たり、意味を考え、わからなくて悩みます。

その過程も楽しいものですが、もつと楽しみなのが、教室で林隆嗣先生による文法、内容ともに深く丁寧な解説を伺い、クラスメートの質問や指摘に刺激を受けて、資料の読み方を毎回新たに学ぶ時です。

東方学院に入学したのは、20 年近く前になります。中村先生の「何歳になっても学びたいと思った時がスタートの時です。」という御言葉に励まされ、2 回の長い中断期間を経て 4 年前からまた学院の机に向かっています。

この間、中村先生始め、奈良康明先生、釈悟震先生、水野善文先生、森祖道先生、加藤栄司先生、有賀弘紀先生の御講義、御指導に接することが出来た幸運と学恩に深く感謝しております。

退職後の平成 19 年京都佛教大学に入学し、根本説一切有部の律のうち、シャヤナーサナヴァスツ(臥具事)を修士論文の課題に選びました。僧の生活のルールである律から、インド仏教教団の実際を少しでも知りたいと考えました。一つの部派の、律のほんの一部を読んだに過ぎませんが、資料



を読むことに専念した 2 年間は、苦しくも充実した時間でした。東方学院の教室での学びが基礎になっています。水野先生の入門クラスで、初めてサンスクリットを学び、名詞の語尾変化に目を白黒させたことを思い出します。

今も仏教資料を読むことは大きな楽しみみです。

定年後の青春に

研究会員 江川一さん

中村先生の『ブツダのことば』などの原始仏典のシリーズを以前から読んでいました。原語で仏典に触れてみたいと思って、定年を期にサンスクリット語を学び始めました。「性、数、格」が一致するように、連声を何度



も解いては文を推定する作業が、まるでパズルを解くようで、すっかり魅かれてしまいました。

また、やはり定年を期に始めた農作業手伝いで感動したことどもを「ころころしたサトイモの葉の上の水滴がととも綺麗であること、蛙が仙人然としてそれを見ていること、その蛙を狙うカラスが賢いことなど」、孫達に伝えるのも楽しみでした。が、最近私の独りよがりのその話題は飽きられたらしく、あまり受けなくなりました。そこでパリー語で平木講師と購読した『ササ・ジャータカ』から、お月さんにウサギがいる物語を話すと、とりあえず聞いてくれました。やれやれですが、サンスクリット語で茨田講師と秋から購読する『ヒトローパデーシャ』で、もつと話のストックを増やさなければと思っています。

研究活動の紹介

公益財団法人中村元東方研究所では、専任研究員ほか連携研究員が、さまざまな研究活動を行っています。今回は、科学研究費補助事業による助成をうけて現在進行中の大型研究プロジェクト「インドの共生思想の総合的研究——思想構造とその変容を巡って」《研究課題番号：25244003》をご紹介します。

本プロジェクトは、専任研究員の釈悟震が研究代表者となつて、平成25年〜28年の4年間にわたる研究として採択されたもので、研究分担者として、当研究所の総括研究員ならびに専任研究員9名（有賀弘紀、金子奈央、佐久間留理子、佐々木一憲、奈良修一、西村玲、前田専學、森和也、吉村均）、及び連携研究者として、池澤優教授（東京大学）、小野基教授（筑波大学）、小松優香准教授（筑波大学）、水野善文教授（東京外国語大学）、日野紹運教授（愛知学院大学）、保坂俊司教授（中央大学）、丸井浩教授（東京大学）、山下博司教授（東北大学）の8名、研究協力者加藤みち子研究員1名、総勢19名で行っている共同研究です。インド・スリランカ・ネパール・チベット・中国・日本の仏教や哲学、更に宗教学、イスラム思想など、それぞれの専門を活かし、単なる古典研究ではなく、現代の諸問題に対応すべく、共生思想から平和思想へという問題意識をもって、各研究員や連携研究員は、研究代表者釈悟震を中心に、積極的に調査研究、さらには成

果の公表を行っています。

また、国内外からゲストを招いての講演会や研究会も行っています。まず、平成25年7月12日（金）、学士会館（東京都千代田区神田）にて、伊東俊太郎博士（国際比較文明学会名誉会長・東京大学名誉教授）の講演をいただきました。

平成26年7月20日（日）には、中村元記念館（島根県松江市）にて行われた比較思想学会第41回大会の場で、科研メンバーを中心メンバーとするシンポジウム

科学研究費 基盤研究 (A)

インド的共生思想の総合的研究

—思想構造とその変容を巡って—

『共生の思想——中村元の「慈悲」の思想を手がかりに』を開催しました。ここでは、春日井真英教授（東海学園大学）、「聖なる空間」の象徴と「蓮華」あるいは「華」、頼住光子教授（東京大学）「日本思想における共生」、丸井浩教授（東京大学）「インドの寛容精神と包括主義——中村博士の思想研究の眼差し——」に平田俊博名誉教授（山形大学）のコメントを加え、学会の各位による熱心なディスカッションが行われました。同じく、平成26年7月20日（日）、中村元記念館（島根県松江市）にて開催された比較思想学会第41回大会の別会場では、メンバーが研究報告をしました。佐々木一憲（公益財団法人中村元東方研究所）は、「涅槃」（ニルヴァーナ）は「不動心」（アパティヤ）か「静寂主義」として理解された仏教、およびその理解の文脈について」、吉村均（公益財団法人中村元東方研究所）は、「和辻哲郎とナールゲルジュナーインド・チベットの伝統的理解との対比」という発表を行いました。

また、平成26年12月11日（木）には、学士会館（東京都千代田区神田）において科研メンバーによる全体会議・研究経過報告会（13時半〜15時半）を行うとともに、16時〜17時半には、HAYO B. E. D. KROMBACH 教授（ロンドンスクール・オブエコノミクス 自然・社会科学哲学センター）をお招きして、「異文化共生世界における哲学対話の重要性」の講演を行い、メンバーとの意見交換を行いました。

平成27年1月31日（土）には、学士会館（東京都千代田区神田）にて、小松優香准教授（筑波大学）による「公共哲学の視座から共生思想を考える」講演をいただき、「公共」と「共生」をめぐる意見交換がなされました。

本年度も、内外のメンバーを交えた調査研究が進められています。



学士会館で講演する小松優香准教授 (H27.1.31)



メンバーと意見を交換する HAYO 教授 (H26.12.11)



中村元記念館におけるシンポジウム 左から丸井浩教授、頼住光子教授、春日井真英教授 (H26.7.20)



学士会館にて、伊東俊太郎博士（前右から2番目）と科研メンバー (H25.7.25)



研究代表者・釈悟震専任研究員 (H25.7.25)

研

究

所

コ

ラ

ム

はやしけいじん

林慶仁専任研究員

昭和 37 年栃木県生まれ。

平成 7 年早稲田大学文学研究科東洋哲学専攻博士過程満期退学。

中村元東方研究所専任研究員、東方学院講師、早稲田大学講師、日本大学講師。
インド、チベット仏教論理学を専攻する。現在東方学院東京本校にて、「仏教論理学入門」「仏教論理学の魅力」を講義している。



頼朝杉

「中村元東方研究所」：名称が

中村先生の学恩を表して十分です。

その徳を表す呼称は、織田記念
競技大会とか、ドゴール空港とか、
忠犬ハチ公とかありますが、ここ

で取り上げるのは、武将に縁のあ
る老木のことです。

静岡県島田市の山深くに、智満
寺という天台宗の古刹があります。

気候のせい、裏には樹齢のある
杉が林立しています。その中の一
本に国の天然記念物があります。
源頼朝がお手植えにしたという伝
承をもち、樹齢八百年。

その通称、頼朝杉が、今から 3
年前のある日、忽然と倒れました。

倒れた巨木を前にし、北川教裕
住職は、啞然としました敬意の念を
いだき、この杉にもう一度命を与
えようと考えられました。京仏師

に依頼されて、菩薩像造立を発願。
通常の杉なら柔らかく彫像には不
向きなのだそうですが、八百年の
年月は、年輪を極限にまで凝縮し
ておりました。

開眼法要の平成 27 年 7 月 17 日。



智満寺 (静岡県島田市)

壮大な藁葺き本堂に安置されたの
は、2メートルもあると思われる
弥勒菩薩座像。儀式の前から、生
けるがごときお顔のまま、静かに
堂内に瞳を落とし、世間を見据え
ています。
人間ならば、生前の業績が死後
にまで残ることもありますが、言
葉を発しない樹が死後、人間の願
によって二度目の呼称を得て、再
び息を吹き返します。
儀式が始まり、導師である北川
住職が想いを込めて入魂作法をな
さいました。すると、仏像のまぶ
たがゆっくりと開いたのです。

新 刊 案 内

加藤みち子 編訳

『鈴木正三著作集 I』

仏法は「用に立つ」、商人の「信」は武士の「忠孝」より上位にある……。徳川武士を捨て野に生きた禅僧の「世法即仏法」とは。
商人の「信」を武士の「忠孝」に対置させ、「信」あつての「忠孝」と読み解く正三。著作集 I には『盲安杖』『万民徳用』等代表作 6 編を収載。II も同時発行。

単行本：(ソフトカバー)：194 ページ

出版社：中央公論新社 言語：日本語

ISBN-10：4121601548 ISBN-13：978-4121601544

発売日：平成 27 年 4 月 24 日

定価：本体 1,600 円 (税別)



研究員の声

田中公明 専任研究員

来年度の教科書刊行

三枝充恵学院長(当時)のご紹介で東方学院の講師をお引き受けしてから、15年になるうとしてい
る。東方学院では、一年で完結せ
ず、何年にも亘って一つのテーマ
を講じられる先生方も多いが、私
の場合は、自分の著書を教科書と
して、毎年異なったテーマの通年
講義を行ってきた。これは他大学
で講師を引き受けることを念頭
に、できるだけ講義のレパートリ
ーを増やしておきたいと考えたか
らである。ところが東方学院では、
私が専門とするチベット・ネパー
ルの仏教や密教美術は不人気で、
受講者も年々減少してきた。私は、
本学院以外でもチベット関係の講
座を担当してきたが、国際交流基
金や大手大学のイクステンション
などでは、あつという間に定数に
達し、募集を中止したこともあつ
た。お断りした方々が東方学院に

来てくれれば、どれだけ助かるか
と思つたことも一度や二度ではな
い。これは私の研究分野に関心を
寄せる方々と、東方学院の客層が
異なるからである。そこで本年か
らは、日本を中心とした「日本の
仏像25」という講座に模様替えす
ることにした。そして来年は、慶
應義塾で春学期に講じてきた「仏
教図像学」の教科書が春秋社から
刊行されたのを機に、これを教科
書として新たな講義を始めること
にした。慶應の講義は1学期で13
回程度だが、今回は17章立てとし
て、東方学院の通年講義にも十分
耐えられる情報量となっている。
東方学院の創立者中村元先生
は、生涯に100冊の本を著す
という大願を立てられ、そ
れを見事に成
就された。私
の『仏教図像



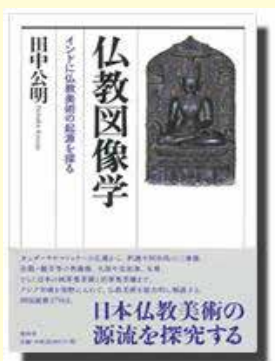
著書「仏教図像学」(春秋社)

学』は、共著を含めると50冊目と
なるが、齢還暦を迎えて、やっと
中村先生の半分の著作数に到達し
たことには、感慨無量のものがあ
る。これから何年、現役で研究を
続けられるか分からないが、中村
先生が達成された100冊の著書を目
標として、これからも頑張つてゆ
きたいと思つている。

田中公明 (たなかきみあき)

昭和 30 年 福岡県八幡市 (現北九州市) 生まれ。昭和 54 年
東京大学文学部卒。同大学院、文学部助手 (文化交流) を経て、
(財) 東方研究会専任研究員。平成 26 年公益財団化にともな
い (公財) 中村元東方研究所専任研究員となる。平成 20 年
文学博士 (東京大学)。ネパール (昭和 63-平成元)、英国オッ
クスフォード大学留学 (平成 5) 各 1 回。現在、慶應義塾大
学講師、東方学院講師 [いずれも非常勤]、ハンビッツ文化
財団 (韓国) 学術顧問、富山県礼賀ふるさと財団「瞑想の郷」
主任学芸員、密教や曼荼羅、インド・チベット・ネパール仏
教に関する著訳書は、本書で 50 冊となり、論文は約 100 編。

新 刊 案 内



田中公明著 『仏教図像学』 インドに仏教美術の起源を探る』

ガンダーラやマトゥラーの仏像から、釈迦や阿彌陀の三尊像、弥勒・観音等の菩薩像、天部や忿怒尊、
女尊、さらに日本の両界曼荼羅と別尊曼荼羅まで、アジア全域を視野に入れて、仏教美術を総合的
に解説する。図版総数 170 点。

四六● 290 ページ
出版社：春秋社 言語：日本語
ISBN：978-4-393-11909-9
発売日：平成 27 年 8 月 28 日
定価：本体 2,600 円 (税別)

研究員の声

山口周子 専任研究員

親しみ易い良書

私は、中村元先生とは直接お会いしたことはありません。ただ、そのお名前は、東洋思想に興味を持ち始めた中学生の時分からよく見知っておりまして。子供の小遣いでも手の届く、岩波文庫「青帯本」シリーズでよくお見かけするお名前だったからです。もつとも当時の私には、「パーリ語原典」と言われてもその価値がよく分からず、漢文原文のない、親しみ易い仏教書といった印象でした。

チベット仏教が伝播した土地の言葉ということで、大阪外国語大学 (現在の大阪大学外国語学部)



京都三条鴨川東岸より・筆者撮影

のモンゴル語学科に入学して後も、中村先生のご著書は、私の書棚に何冊か並んでおりました。さらに、留学中、モンゴル人僧侶にある経典の解説を手伝ってもらおうべくラプラン寺 (中国甘肅省にあるゲルク派の学問寺) の宿泊所に 20 日ばかり泊まり込んだときにも、中村先生の著された『ブツダの真理のことば・感興のことば』を携えておりました。もつとも、特にたいそうな理由はありません。考えていたことといえば精々、「文庫本で軽い」「日本語が恋しい」「寺での読書は仏教書が相応しい」といった程度です。それでも、夜、安宿の裸電球の灯りのもとで読みふける日本語の「ブツダのことば」は、なかなか進まない解読作業と氷点下の寒さに少々参りかけていた私をおおいに励ましてくれました。

無論、その頃は、後々パーリ語

も学ぶようになることや、何よりもこのような形で中村先生とご縁を頂くことになろうとは夢にも想いませんでした。また今更ながらですが、決して易しくはない原典を、中学生でも解る易しい日本語に直された先生の知識と志には、改めて感服いたします。ご遺志に少しでも沿えるよう、今後ともさらに精進して参ります。



山口周子 (やまぐちなりこ)

京都府出身。大阪外国語大学 (現 大阪大学外国語学部)、京都大学卒業。専門領域は、仏教説話、モンゴル仏教。代表的業績 (著作・論文) に、『< 仏の物語 > の伝承と変容 - 草原の国と日出ずる国へ』 (京都大学学術出版会 平成 25 年)。趣味は読書。好きな言葉に「丈夫四海志 (じょうぶしかいにこころざさば) 万里猶比隣 (ばんりなおひりのごとし)」。抱負として、「A. トンプソンの「タイプ・インデックス」を参考に、仏教説話も分類すること」を掲げる

新 刊 案 内

森祖道著 『スリランカの大乗仏教—文献・碑文・美術による解明—』



上座部仏教国スリランカには、かつて大乗仏教が栄えていた！
今は忘れ去られた、彼の国の大乗仏教・密教の足跡を、サンスクリット・パーリ・シンハラ語諸文献はもとより、碑文銘文・美術彫刻など考古学資料をも駆使して、その全貌を丹念に浮き彫りにした画期的総合研究。東方学院講師森祖道氏著。

単行本：496 ページ
出版社：大蔵出版 言語：日本語
ISBN: 978-4-8043-0591-2
発売日：平成 27 年 6 月 25 日
定価：本体 12,000 円 (税別)

行事 イベント 報告

7月4日(土)開催 事務局員総会・研究員総会

平成 27 年度事務局員総会(東京本部事務局、関西事務局、中部事務局)を、7月4日(土) 中村元東方研究所にて実施し、事務局長をはじめ総勢 12 名が出席しました。



総会の様子

その後港区にある仏教伝道協会に会場を移し、研究員総会が実施されました。23 名の研究員が出席し、前田専學総括研究員の開会の辞に始まり、執行部より研究員に対する通



前田専學総括研究員の開会の辞

達・要請事項が伝えられました。また今年初めの試みとして、研究員による研究発表会が実施され、奈良修一「ジャワにおける宗教共生―スーフィーを中心に」と、山口周子「ウダナヤ王物語をめぐって」の発表があり、各内容に対して論評が行われました。

達・要請事項が伝えられました。また今年初めの試みとして、研究員による研究発表会が実施され、奈良修一「ジャワにおける宗教共生―スーフィーを中心に」と、山口周子「ウダナヤ王物語をめぐって」の発表があり、各内容に対して論評が行われました。



参加者全員で記念撮影

見交換がなされ、盛況にて終了しました。

8月8日(土)開催

神儒仏合同講演会

於 東京・神田神社

神田明神、湯島聖堂、中村元東方研究所の 3 団体による合同企画で、毎年恒例の「神儒仏合同講演会」が、今夏も開催されました。第 7 回となる今回は、テーマを「生きがいを求めて」

「神儒仏の主張」とし、神道は平岩昌利講師(代々木八幡宮宮司・元東京都神



会場の様子

社庁庁長)、儒教は田中佩刀講師(明治大学名誉教授・国語問題協議会理事)、仏教はひろさちや講師(東方学院講師・作家)が、神道・儒教・仏教はどのようにに人々の生きる力となり得るのか、現代における神儒仏の主張を展開しました。参加者数は 100 名を超える盛況ぶりです、関心の高さが窺われました。



ひろさちや講師の講演

5月22日(金) 9月18日(金)開催

仏教文化講演会

於 高松・法恩寺

平成 22 年度より香川県高松市の法恩寺との共催で、毎年 2 回 5 月と 9 月に佛教文化講演会を開催しております。今年も、第 10 回を 5 月 22 日(金)に実施し、茨田通俊講師が「慈悲・積尊から親鸞へ」をテーマに講演しました。また第 11 回は 9 月 18 日(金)に林慶仁講師による講演「仏教の真理は知識で得られるか」を実施しました。



9月26日(土) 27日(日)開催 ナマステ・インディア 2015

於 東京・代々木公園

9月26日(土)・27日(日)の両日にわたって、東京・代々木公園にてナマステ・インディア 2015



セミナーハウスの講義

が開催され、東方学院からは、例年通り、セミナーハウスとブースを運営しました。東方学院セミナーハウスの講師陣・講義名は以下の通りです。毎講座多くの聴講者にご参加いただきました。東方学

東方学院セミナーハウス 講師・題目

【9月26日(土)】

高柳さつき(中村元東方研究所専任研究員)

「般若心経」入門、一歩前!

田中公明(中村元東方研究所専任研究員・東方学院講師)

「MANDALA III」

吉村均(中村元東方研究所専任研究員、お茶の水女子大学他講師)

「仏教と心―空海の十住心について」

【9月27日(日)】

林慶仁(中村元東方研究所専任研究員・東方学院講師)

「日本におけるインド式討論術」

森和也(中村元東方研究所専任研究員・東方学院講師)

「植民地インドと近代日本」

石川巖(中村元東方研究所専任研究員・東方学院講師)

「パドマサンバヴァ伝説の起源について」

奈良修一(中村元東方研究所専任研究員・東方学院講師)

「インド的「寛容」―「神」をめぐって」

院ブースでは、26日には東方学院の仏像彫刻教室の有志によるワークショップ「じゃがいも仏をつくらう」を運営しました。50名を超える参加者がありました。また、27日には、研究員有志と事務局スタッフによるワークショップ「デヴァナーガリー文字で自分の名前を書こう」を運営し、述べ90名を超える参加者を迎え、大変な盛況となりました。



完成したじゃがいも仏



デヴァナーガリー文字を書く参加者

10月3日(土)開催

中部校主催

東方学院体験講座

平成27年度東方学院中部校公開講座が10月4日、名古屋市東別院会館にて行われました。今回は「日本初の文学博士・梵語学者南條文雄」をテーマとし、ゲスト講師に、南條文雄氏(岐阜県大垣市出身)と同郷の和田壽弘氏(名古屋大学教授・インド哲学)を迎え、日本

にははじめ近代的な梵語学の研究方法を導入した南條文雄の生涯と業績について取り上げました。フリートークの時間には参加者から質問が飛び交い、活発な議論がなされました。



南條文雄の著書

今後のイベントのご案内

★東方学院・酬仏恩講演合同講演会

【日時】平成27年12月5日(土)

※時間未定

【会場】薬師寺・まほろば会館

【講師】立川武蔵講師(国立民族学博物館名誉教授)

加納和雄講師(高野山大学准教授)

★新春研究発表会

【日時】平成28年2月22日(月)

※時間未定

【会場】東京ガーデンパレス

【講師】未定

※詳細が決まりましたら、公式ホームページ等で告知させていただきます。

平成27年度芳名録 (五十音順・敬称略)

本年度も多くの皆様にご支援いただきました。心から御礼を申し上げます。 ※平成27年9月30日受領分までを掲載しております。

維持会員

赤井士郎 浅井泰範 史跡足利学校事務所 今西順吉 太田光美 小笠原勝治 川崎寿子 川崎大師 平間寺 小坂機融 金剛院仏教文化研究所 久保継成 斎藤敬 西来寺 山陰中央テレビジョン放送 下重好正 淳心会(日野紹雲) 末廣照純 菅原信海 浅草寺 高崎宏子 高松孝行 多田孝正 田辺和子 田原豊道 千葉よし子 中央学術研究所 千綿道人 角田泰隆 常磐井鸞猷 中田直道 奈良康明 成田山新勝寺 西岡祖秀 日本ヨーガ禅道院 念法真教 羽矢辰夫 仏教書総目録刊行会 仏教伝道協会 法恩寺(藤原敏文) 法清寺 前田専學 前田式子 三木純子 三友健容 薬王院 渡邊信之 渡邊賢陽

賛助会員

阿部敦子 有馬頼底 栗野芳夫 石井勝彦 石井義長 伊藤瑞叡 稲葉珠慶 入井善樹 入江有道 石上智康 宇村真 遠藤康 大井玄 大谷光真 太田正孝 小笠原隆元 岡田行弘 岡田真美子 荻山貴美子 奥田洋子 菅野博史 北村彰宏 木村清孝 黒田大雲 小林守 小林和子 小峰啓督 小峰立丸 古村けさじ 小山典勇 在家仏教協会 佐久間秀範 佐久間留理子 櫻井瑞彦 定方晟 佐藤憲晃 佐藤行教 下田勇人 浄土真宗東本願寺派本山東本願寺 末木文美士 菅沼莊二郎 須佐知行 鈴木清子 鈴木勇介 関戸堯海 大海修一 高橋審也 高橋尚夫 田上太秀 武田浩学 竹田軍都 立花ひろ子 田中良昭 千賀正榮 鶴谷志磨子 洞雲寺 東京書籍 東洋哲学研究所 徳育経営研究所 戸田忠 鳥山玲 中川委紀子 長野市南長野仏教会 中村行明 中村保志孝 那須礼子 西内之朗 西尾秀生 西川高史 西宮寛 畠中光亨 花岡秀哉 花山多賀江 濱川香雅里 濱川量子 引田弘道 久富幸子 一月正人 平井恭子 平岩阿佐夫 福土慈稔 福留順子 福原正直 藤井教公 藤田宏達 法恩寺(藤原敏文) 堀江順司 堀越教之 的場裕子 水谷浩志 水野善朝 宮元啓一 森脇宏 矢島浩志 矢島道彦 山口泰司 山田和伸 山本文彦 由木義文 好井瑞院

東方学院後援会

一心寺 今宮戎神社 大神神社 奥田聖應 加藤公俊 健代和央 古泉圓順 坂本峰徳 四天王寺 清風学園 瀧藤尊淳 塚原昭應 塚原亮應 出口順得 出口隆順 唐招提寺 東大寺 念法真教団 平岡英信 南谷恵敬 宮崎光映森田俊朗 森田惇朗 山岡武明 吉田明良

ご寄付

清川容子 来馬正行 小林和子 西城宗隆 齋藤はるみ 真宗大谷派親鸞仏教センター 武田信光 藤田宏達 松野進

事務局通信

● 新任事務局員紹介

本年度より 2 名が新たに当法人の事務局員として着任いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

三好 鮎子 (みよし あゆこ) 平成 27 年 4 月 1 日付

中山 美穂 (なかやま みほ) 平成 27 年 9 月 1 日付

宜しく願い申し上げます。

左：三好局員 右：中山局員



● 編集部より

東方だよりは、本号より記事・構成など大幅にリニューアルいたしました。今後も読者の皆様からのご意見・ご要望をいただき、よりよい誌面にしていく所存です。またご寄稿もお待ち申し上げます。尚、ご連絡は手紙 (宛名面に「東方だより編集部宛」とご記入願います) にて承っております。

当研究所の活動にご賛同下さる皆様へお願い

公益財団法人中村元東方研究所は、創立者中村元の理想を実現するため活動する非営利の文化事業財団であり、その運営はご理解ご協力いただける皆様からのご寄付により成り立っています。当研究所では各種会員を設定して、活動趣旨にご賛同いただける皆さまの積極的なご支援をお願いしております。

(1) 一般寄付

一般寄付は会費と異なり、金額や期限等を設定せずに、随時受け付けさせていただいております。お寄せいただいた寄付金は、当法人が取り組んでいるさまざまな活動に広く活用させていただきます。

(2) 継続ご支援 (維持会員・賛助会員)

当法人の活動に賛同し、継続的に支援して下さる会員も随時募集しています。

・維持会費：一口 年 50,000 円

・賛助会費：一口 年 10,000 円

※上記いずれかをお選びいただき、出来れば複数口でお願いできれば幸いです。

(3) 普通会員：年会費 7,000 円

普通会員にも、維持・賛助両会員と同じく、定期刊行物『東方』の他、催し物、会合等のご案内をお送りいたしますが、年会費に税の優遇措置は適用されません。

【所得税の免税について】

当法人は文部科学大臣より寄付金控除の対象となる証明を受けていますので、上記 (1)、(2) の一般ご寄付及び維持会・賛助会の会費は、下記の通り税法上の優遇措置の対象となります。

※所得控除・・・所得控除は、所得金額に対して寄付金額の大きい場合に減税効果が大きくなります。「その年の寄付金額 - 2,000 円」が課税される所得金額から控除されます。控除できる寄付金額はその年の総所得金額等の 40% 相当額が限度となっております。

公式ホームページのご案内

東方研究所及び東方学院の公式ホームページでは、さまざまな情報が随時更新されております。是非ご覧下さい。

ホームページ URL : <http://www.toho.or.jp>

中村元東方研究所

検索

- ▶ 当研究所の目的・理念・あゆみ
- ▶ 中村元博士の略歴・著作文献目録
- ▶ 東方学院 (開講科目、講師紹介、著書紹介)
- ▶ 専任研究員紹介、書籍案内



東方だより 平成 27 年度前期号 (通号第 26 号)

平成 27 年 10 月 10 日発行

【編集 / 発行】公益財団法人 中村元東方研究所 本部事務局 (東京) 編集責任者：釈悟震

〒 101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 延寿お茶の水ビル 4 階 TEL: 03-3251-4081 FAX: 03-3251-4082